



(縁・円・援)

兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

～日ごろのつながいでまちを守るためにも～

令和6年1月1日。能登半島を中心に震度7の大きな地震が起きました。29年前の阪神淡路大震災、13年前の東日本大震災。その後も次々と続く災害に、いつ、この地にも災害が来るかもと思わずにはおられません。日常でも、いざの時でも、地域の中でつながっていくために、生活支援COの役割はさらに重要となりそうです。

令和5年11月24日、「生活支援コーディネーター実践セミナー」でも社会的孤立に対して、きめ細やかなつながりづくりの取り組みが報告されました。

令和5年度生活支援CO実践セミナー開催

～社会的孤立を生まない、一人一人が活躍できる地域づくり～



但馬県民局 守本氏

「社会的処方」について

社会的処方とは数年前イギリスから入り、医療側が孤独に問題意識を持ち、価値を問い直し、領域を越えていった。豊岡市では屋台や地域の施設、商店街の一角を居場所にし、リンクワークに繋がないで、ケアとまち、まちからケアを繋ぐ拠点にしている。

講師：兵庫県立大学 環境人間学部
准教授 竹端 寛氏
登壇者：兵庫県但馬県民局
豊岡健康福祉事務所
医師 守本 陽一氏
養父市健康福祉部介護保険課
第1層生活支援CO・保健師
森 朋美氏
養父市社会福祉協議会 小泉 一輝氏



養父市役所 森氏

社会的処方を取り込んだ地域づくり

社会的孤立の割合は、実態調査の結果、この10年間で顕著に高くなっている。保健師として、地域で元気に暮らす秘訣と、地域でどんなことができるか話し合う座談会を生活支援COとともに自治協議会ごとに行っている。住民からの意見に住民の力を感じ、わくわくしながら健康教室を行っている。



講師：兵庫県立大学 竹端 寛氏



養父市社協 小泉氏

第2層生活支援COの実践

コロナ禍で原点に戻り、コミュニティナーズと一人暮らし訪問を行っている。実態調査で男性の孤立が目立ったため、「ものづくりでつながる男性の居場所」を医療、介護等の担当者と一緒に開催。アルコール依存や脳梗塞等で孤立していた方々がいきいきと参加されている。これは特別なことではない。地道な活動が土台になっている。

竹端先生からのアドバイス

事業等を専門職が全部行ってしまうのではなく、本人を中心に、現場の人の可能性を引き出し、一緒に作り上げるようなプロセスを確認していくことが大事なポイント。

【発行元】(令和6年1月17日発行)

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号

兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部

TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297

E-Mail:seikatsushien@hyogo-wel.or.jp (担当：富永・永坂)

「社会的処方」を取り込んだ養父市の活動から見てきたこと



孤独を感じるのは世代に関係ない。集まる場は、楽しい、お洒落、面白い等を意識し、一人一人が輝ける場を作っていくことが大切。

リンクワーカーは繋がりを持つ人たち。そのリンクワーカーとつながってもっと大きな輪にできるのは生活支援COではないか。

「読み解き」とは、「これを住民に説明するにはどう言葉を置き換えたらいいか？」と考えることではないか。

地域で聞いてくれる人がたくさんできたら、「辛い」とか「寂しい」とか「弱い」ってことを素直に言えるんじゃないかな。



大切なのは、生活支援COや福祉だけで担うのではなく、その領域で得意なところどう連携するのか。

コミュニティワーカーは、脈々と流れる力がある。住民と一緒に、住民主体、小さなことを多くの人たちと考える等、王道をきちっと行っていたら、いろいろなことが起きてもすぐに取り込んで力に変えていけるんだ。

「社会的処方」は、特別のことではなく、普通のことやっていると、3人の登壇者は言い続けてくれた。

竹端先生からのアドバイス
孤独・孤立に対して、「社会的処方」のように医療が入り口の時もあれば、その人が得意な作品であったり、よく訪問してくれている銀行だったり、畑や回覧板だったり、いろいろあっていい。つないでもらえる関係性を作っておくことが大切。

生活支援CO「えん巡りの旅」：こんなことありました！



「ほっとけない」地域づくりを考える集い (三木市社協)
三木市社協では、ボランティアセンターを中心に自分達でアレンジしたカードゲームを使い、市内の活動者や民生委員児童委員の方々と、地域でよく起きている事例をひも解いていきました。演習を通じて、多くの気づきとともに、わがごとになっていく様子が見られました。

つどい場交流会 (香美町社協)
香美町社協では、つどい場交流会を町内2か所で開催しました。「つどい」ことを楽しみ、生活の一部になっている実践の紹介や、活動の悩み、工夫していることなどを活発に共有しました。熱心に話し合う姿にこのまちの力強さを感じました。

ほかにも姫路市社協・加古川市社協・高砂市社協にお伺いして生活支援COの活動状況について教えていただきました。

《お知らせ》
○生活支援COフォローアップセミナー
日時：3月11日(月)
10:30~16:30
場所：兵庫県福祉センター(予定)

【編集後記】
今回の実践セミナーは「社会的処方」を取り込んだ養父市の活動を紹介しました。この中で、医師、地域住民の日常に目をむけ、保健師がデータをもとに地域を駆け巡り、生活支援COが住民に寄り添いつなぐ、住民が自分のできることを精一杯発揮する。これは、まさしく、地域包括ケアでした。保健医療福祉と地域住民、それぞれ立場が違っても、一歩ずつ近寄り、できることを行う。そこには、住民を中心に置いた優しいまちづくりが実現しつつありました。